国家公務員試験

今回、学生支援課の渡邉友理さんに国家公務員総合職試験（以下、国家公務員試験）に関するお話を伺った。

毎年多くの本学学生が合格し、近年は全私大中3位の合格者数を維持している国家公務員試験で、今年は過去5年で最も多く、昨年比で約2倍の合格者数という快挙を成し遂げた。とはいえ、本学が国家公務員試験に強いことを知らなかった、という学生も少なくはないだろう。

国家公務員試験は興味が無ければなかなか目を向けないもの。頭が良い人でなければ合格できないと思っている方も多いのではないだろうか。そんなことはない。この記事できちんとした情報を入手し、国家公務員試験に興味のある人にも、今まで興味のなかった人にも国家公務員試験を受験する後押しとなれば幸いである。

国家公務員とは各省庁に勤務し、国民全体のために仕事をする人たちのことである。

その国家公務員になるためにはまず、採用の種類があることを知っておかなければならない。国家公務員の採用枠には大きく分けて国家公務員総合職、一般職の2種類があり、院卒者試験、大卒程度試験等に分かれている。ではこの2つの採用区分による違いを簡単に言うと、総合職の方が一般職の試験よりも難しく、採用後の昇進や給料なども区別されているということだろう。

ところで、総合職、一般職という言葉を聞き慣れない方も多いかもしれないが、これは平成24年以降に使われている新しい名称であり、総合職というのが以前のⅠ種（大卒程度）にあたり、一般職というのが以前のⅡ種（大卒程度）、Ⅲ種（高卒程度）に相当する。名前が変わっても仕事内容に違いはないそうだ。また、国家公務員の採用枠は技術系、事務系と分かれていて、試験も別々となっている。これは総合職、一般職それぞれにあり、私たちのような理系の学生の多くは技術系を受ける。もちろん理系の出身でも事務系の試験を受けて合格すれば事務系の国家公務員として採用されることも可能だが、技術系国家公務員なら大学あるいは大学院時代の理系としての専門知識を活かせる仕事に就くことができる。

ここで少し注意が必要なのは、技術系職員というものには多くの人が想像する研究職のような仕事は少ないということだ。技術系職員というのは一口に言ってしまえば理系の専門知識を持ち、それを使いこなす事務職であり、自らの手や頭で何か新しいものを研究開発するような仕事はあまりない。例えば、本学の学生に人気な経済産業省の特許庁に務める技術系職員の仕事は、全国から申請される特許申請の内容が本当に過去のどの特許内容とも被ることがないものであるかを確認することなどだ。なので、研究者になることを目指して本学に入学した方には少しイメージが違うかもしれない。

では実際に国家公務員になるにはどうすればいいのか。ここからは総合職に限った話になるが、まず出願の申し込みは4月初頭の1週間のみで、インターネットで行わなければならない。そして、マークシート形式の一次試験が4月末の日曜日に実施され、この一次試験に合格した者を対象に二次試験が5月から6月にかけて行われる。5月から6月にかけてというのは、記述による筆記試験と討論、あるいは論文の試験が別日であるためだ。この二次試験も合格した者は国家公務員試験合格となる。だが国家公務員試験に合格した者がみな国家公務員になれるのかというとそうではなく、自分の行きたい省庁へ官庁訪問をして各省庁の人事担当の方と面接をし、採用されれば晴れて国家公務員になることができる。採用は国家公務員試験の成績優秀者から順に採用するという省庁もあれば、試験の点数は考慮せず面接での人格判断のみで決めるというところもあり様々である。文章で見ると手順が多くて険しい道のりだと思う方もいるかもしれないが、一般企業に就職する場合と実はそれほど違いはない。しかも官庁訪問は国家公務員試験合格から3年間でき、一度落ちても次の年に再チャレンジが可能なので、むしろ一般企業よりも良いかもしれない。一度落ちて次の年に合格などあり得るのかと思うかもしれないが、実際そのようにして受かった人もいるようである。このような段階を経て、7月の上旬に国家公務員の内々定が出るのだが、もし国家公務員総合職の方で落ちてしまった場合でも総合職と一般職では試験日程が異なるので一般職を併願することができ、国家公務員になれるチャンスは一度ではないので目指そうという方は諦めないでほしい。必ずしも全員が国家公務員になるために試験を受けるわけではないので一概には言えないが、国家公務員試験に合格して実際に国家公務員になる人の割合は3～4割程度だ。

他にも、本学では国家公務員試験に合格すると合格年度の半期分の授業料が奨学金として支給されるという嬉しい面もある。つまり、合格者は合格年度の後期は授業料無料ということである。実際この制度を利用するため、学部4年から大学院修士2年まで毎年国家公務員試験に合格し続けた人もいたようである。

また本学では国家公務員を目指そうという方々へ向けた支援が手厚く行われている。いくつか例を挙げると、教養講座というものでは公務員試験で必ず必要となる教養試験の対策や面接試験の対策を行い、専門講座というものでは数学や物理の基礎など、国家公務員総合職を工学の区分で受ける場合の専門試験の対策をしてくれる。これらの講座はそれぞれ20回ほどの講座で、葛飾、野田キャンパスで開講されるので確認してほしい。この他にも、分野ごとに本学の教員が直接指導して二次試験の専門科目の対策をしてくれたり、模試などの解説を作成してくれたりするという他大学に例を見ない取り組みもあって非常に充実している。

このような講座の情報はCLASSの就職関連のページに載っているのでぜひ定期的に確認をしてほしい。また、多くの講座はCLASSでの事前申し込みが必要だが、講座によっては当日の飛び入り参加も構わないそうだ。

ちなみに講座の多くは9月頃から始まるので、自分が受けたいと考えている前年の9月から講座に参加して国家公務員の試験勉強を少しずつ始めていく人が多い。

これら多くの支援のおかげか、冒頭にも書いたように本学の国家公務員試験合格者数は全私立大学中3位をここ数年保っており、今年に至っては去年の2倍の人数もの学生が合格している。これはなぜかというと、昨年まで政権を担っていた民主党が国家公務員の人数を削減する方針であったのだが、自民党に戻って国家公務員の採用数が一気に増えたからということ、その中でも本学学生の多くが受験する技術系の採用枠が特に増えたということが挙げられる。だがそうは言っても、昨年比2倍という増え方をしたのは本学のみであり快挙だと言える。ちなみに国家公務員試験に合格した学生の多くは電気電子系、あるいは土木系の学生であったらしい。

公務員というと試験が難しいと思い込んで自分の選択肢から除外している人もいるかもしれないが、公務員には理系の知識をしっかり活かして活躍できるフィールドもあり、自分の選択肢の一つとして入れてもらえれば将来の幅が広がるので、ぜひ一度でも国家公務員の講座に参加して、興味を持っていただきたい。

国家公務員総合職試験
合格者インタビュー
理学部第一部 応用物理学科卒　野口 侑樹

Q 国家公務員総合職試験を受けたきっかけについて教えて下さい。

A 小さい頃に「踊る大捜査線」を観て警察の仕事に興味を持ち、学部2年の時に警察官になりたいと思ったからです。勉強はあまり本格的には始めていませんでしたが、警察についての情報を探し始めたり説明会に参加し始めたりしました。学部4年の時に国家公務員Ⅰ種試験に合格した同級生に国家公務員総合職に警察庁の仕事もあると聞いてその道も良いなと思い志願しました。

Q 国家公務員になる利点について教えて下さい。

A 多くの人に関係する仕事が出来ることです。例えば民間企業の自動車会社に就職した場合、車を利用する人には役に立てますが、車を利用しない人にはあまり役に立てない事が多く、限られた場面でしか役に立てないじゃないですか。しかし、公務員である警察官の仕事は、全ての人々の生活の様々な場面で役に立てる事が魅力だと考えています。

Q 国家公務員総合職試験を受ける利点はありますか。

A 本学では国家公務員総合職試験に合格すれば授業料の半期分が免除されるという特典があります。他にも省庁の建物の中に入ることは普段なかなか経験できない事なので、それができるのは受験する大きなメリットだと思います。

Q 国家公務員総合職試験は難関だと聞きますが、どういった試験対策を行っていましたか。

A 基本的には、大学で開催されていた公務員対策ゼミの講座を極力全て受けるようにしていました。それに加えて、学科の勉強として講座で配られたテキストを何度も反復して解きました。それと大学生協で販売している市販の国家公務員試験対策本を買ってボロボロになるまで使いました。面接については大学の面接対策講座を受け、実際に一般企業の就職面接を受けて実戦練習を重ね、面接に慣れるようにしました。よく一般企業の就職面接までやった方が良いのかと聞かれるのですが、自分は受けた方が良いと思います。なぜならば、仮に公務員になって仕事をする時に相手にするのは一般企業の方々も含まれており、一般企業についても知っておく必要は十分にあると思うからです。なにより面接の練習として活用できるので絶好の機会になります。

Q 国家公務員総合職試験について教えて下さい。

A 一次試験ではマークシートで択一式の問題が出題される教養試験と専門試験があります。教養試験では学校で学ぶような勉強だけでなく、パズル的な問題もあり、そういった問題は定期的に解いておかないと感覚がすぐに鈍ります。一次試験の専門試験では、自分の専攻している分野の問題だけでなく、自分の専攻していない複数の分野の問題があります。その中からいくつか選択して答えていくのですが、自分の専攻している分野だけ選択していくと結構難しい問題に当たることもあるので、どの分野も易しい問題であれば答えられるようにしておくと良いと思います。二次試験になると同じ専門試験であっても記述式になっていて、そこでは2つのテーマを選択して解答していくので勉強する範囲は狭くなる反面、専門知識が求められてきます。それに加えて、二次試験では人物試験の面接と論文試験もしくは集団ディスカッションが課せられます。それに合格すれば府省庁等に採用される資格が与えられます。そこから国家公務員として働くためには試験合格とは別に志望官庁を訪問し、採用面接を受けて内定を獲得するための「官庁訪問」があります。また、提示延期制度というのもあり、試験に合格した者に与えられる資格の行使を3年間まで延期する事もできるので、学部4年で試験に合格して院に進学してから修士2年で官庁訪問する事も出来ます。

Q 国家公務員総合職試験を受けた際に苦労した事を教えて下さい。

A 修士1年の時にも国家公務員試験を受けていて、その時の結果は不合格だったのですが、その時に研究室の教授に公務員を目指すのに大学院に通う必要があるのかと言われた時は気持ちが沈みましたね。だから、研究と試験勉強の両立には多少悩みました。しかし、国家公務員試験の勉強をしていたのは学校の帰り道などの合間の時間を活用していたのでそこまで圧迫された感じはありませんでした。

Q 学生時代に頑張った事はありますか。

A 大学に入学した時にあったガイダンスで、学科の教授が専門知識に偏った人間にはなるなという話をされていたので広く学問を学ぼうと思い単位をたくさん取るようにしていました。結果4年間で195単位を取得することが出来ましたが、200単位は無理でしたね。大学で学んだ一般教養の講義は、国家公務員試験を受ける時に社会の教養として活かせて、役に立ったので良かったです。そして、学生時代でしかなかなか経験できないボランティア活動にも積極的に取り組んでいました。活動を重ねるごとにリーダーなども任されるようになり、そこでリーダーシップも身に付きました。

Q 国家公務員総合試験を受ける上で大切なことを教えて下さい。

A 試験に合格するためだけなら頑張って勉強すれば大丈夫だと思います。しかし、希望の省庁の採用に関わってくる官庁訪問となると勉強だけでなく、省庁に入って何がしたいかや、何が出来るかというような具体的な事について深く考えておく事が一番大切だと思います。それと、自分が官庁訪問を実際にしてみて求められていると感じたのは英語力ですね。ただ試験問題の英語を解けるだけでなく、仕事で英語を話したり聞いたりする実践的な力があるのかという事を官庁訪問の際に凄く聞かれたので大切だと思います。

Q これから国家公務員総合職試験を目指す本学学生にアドバイスをお願いします。

A 本学学生であれば国家公務員試験は決して難しいものではないと思います。国家公務員試験に合格するのは難しいというイメージを持った人が多いと思いますが、本学でちゃんと授業を受けて定期テストをクリアできる人であれば決して厳しい試験ではなく、勉強については問題ないと思うのでどんどん挑戦していってほしいですね。勉強よりも面接で聞かれるような、公務員になってどうしたいかといった具体的な将来の自分のビジョンを描いていくことを重視して頑張ってほしいです。

▲取材に応じていただいた野口さん